

事業実施報告

開催日	令和4年9月17日（土）～18日（日）		
事業名	テンパーク・スマイルキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	8名
対象	滝沢小学校及び滝沢中央小学校の6年生（滝沢中学校への進学予定者）		
関係機関名	滝沢中央小学校・滝沢小学校		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

本事業は、中1ギャップの未然防止のため、他者と関わる活動を通して人間関係を構築する契機とすることを目的として実施した。

1日目は、まずアイスブレイクを行いボランティアを含め全員の和やかな雰囲気づくりを行った。その後、アドベンチャープログラムのジャイアントシーソーに挑戦し、全員でバランスを取りながら乗ることができた。後半に2つの講座を受講した。イラスト講座では似顔絵の描き方を学び、マジック講座では手品の体験をした。夜はボランティアを含めた3チームに分かれ、室内で行うスポーツ雪合戦を行った。

2日目は、スーパー警泥（鬼ごっこ）を行った。ボランティアを鬼とし、参加者はトランシーバーを使いながらみんなで協力して逃げ、森や草原をフィールドとした自然の中での鬼ごっこを楽しんだ。

〔成果〕

・アドベンチャープログラムのジャイアントシーソーでは、最後に全員でバランスを取りながら乗ることができ、話し合いながら目標が達成できたことで参加者がまとまることができた。

・イラスト講座・マジック講座では、それぞれの講師に子供たちに合わせた教材を準備していただいた。イラスト講座では、福笑的な教材を使用しながら、顔や表情の特徴をつかみ似顔絵を描く方法を指導していただき、マジック講座では、タネの隠されているペンや専用のカードを全員に配付していただき、手品の演じ方を指導していただいた。それぞれの講座で、個別にきめ細やかに指導していただくことができたことからアンケートでは両講座の「満足」が100%であった。

・スーパー警泥（鬼ごっこ）では、ボランティアを鬼とし、逃げる参加者をペアにして行った。ペアごとにトランシーバーを与え参加者同士で連絡を取り合えるようにしたことで、みんなが協力する様子が見られた。秘密のアイテムを森に隠したり、捕まった仲間を救い出す方法を与えたりするなど、ルールを工夫したことで子供たちも夢中になり楽しむ姿が見られた。

・事業後のアンケートでは、事業全体に関する満足度について、「満足」「やや満足」の評価が100%であった。また、今回の参加により友達と仲良く（前よりも）できたかを聞いたところ、「できた」「だいたいできた」の回答が100%であった。自由記述においても「今回のスマイルキャンプを通して多くの信頼と、きずなを深めることができた」「他の学校の人も楽しい活動を通して親しくなったので良かった」との記載があり、事業の目標を達成することができたと考える。

〔課題〕

・同一中学校に進学する小学6年生に限定した対象であったため参加者が少なかった。募集を同一市内の小学6年生にするなど範囲を広げることも考えられる。

・キャンプというネーミングからも、当施設を活用した自然体験活動をプログラムに入れることも考えていきたい。



「アイスブレイク」



「ジャイアントシーソー」



「イラスト講座」



「マジック講座」



「スポーツ雪合戦」



「スーパー警泥」

注1) フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2) 状況写真は4～6枚掲載し、コメントを付すこと。